

「献血カードの多角的利用の可能性」

- 医療機関の立場から -

日野原茂雄

聖路加国際病院予防医療センター

聖路加国際病院予防医療センターでは、現在1日60名の一日人間ドックを毎日行っているが、コンピュータを駆使する自動化総合健診方式である。人間ドックデータにより健康度評価を行い、一部の受診者を対象に、この結果を光カードに入力し、生活習慣病の予防に役立っている。いわゆる健康歴の活用による予防の効率化を目標としている。この健康歴を柱とする健康管理カードは光カードの多角的利用のベースとして期待して良いと考えられる。